

第15回 作業療法ジャーナル研究助成

芝崎律子氏の「特別支援学校で働く作業療法士に必要とされる力
—教員とのよりよい協働のために」に決定



芝崎律子氏

過日、第15回 作業療法ジャーナル研究助成対象選考会が開かれ、芝崎律子氏の研究が選ばれた。芝崎氏の研究テーマは「特別支援学校で働く作業療法士に必要とされる力—教員とのよりよい協働のために」である。助成期間は3年間であり、助成金額は30万円である。研究経過については、次年の本誌に掲載する。

第15回研究助成を受けての言葉

芝崎 律子

(筑波大学大学院・神奈川県立麻生養護学校、
作業療法士)

このたびは第15回の研究助成の対象に選出いただき、ありがとうございます。「作業療法ジャーナル」編集委員の皆様、選考に携わっていただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

研究テーマは「特別支援学校で働く作業療法士に必要とされる力—教員とのよりよい協働のために」です。近年、全国の多くの特別支援学校でPT、OT、STが活用されるようになりましたが、OTの働き方や役割、教員との協働のあり方等については統一した見解はなく、地域や各校の状況により異なっていると思われます。医療職であるOTが学校で働くには、医療機関で実施していた治療や訓練をそのままもち込むだけではうまくいきま

せん。学校という場で、教員と共に働くためには、医療現場で必要とされるOTとしての能力に加え、プラスアルファのスキルが求められているのだと思います。そこで実際に特別支援学校で働くOTの先生に学校での業務内容や成果、課題、教員との協働の状況についてお話をうかがい、学校でOTの専門性を発揮しながら教員と協働するにはどのような力が必要なのかということを検討したいと考えております。

本研究が今後の特別支援学校での作業療法の可能性を少しでも広げることにつながるよう、努力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。